

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局街路課
担当課長名：松谷 春敏

事業名：都市計画道路 浦上川線	事業区分：街路	事業主体：長崎県		
起終点：自：長崎県長崎市茂里町 至：長崎市長崎市元船町	延長：2.36km			
事業概要：当路線は、長崎市の中心部から西彼杵郡時津町を結ぶ地域高規格道路（長崎南北幹線道路）の一部として整備している。当路線の整備により、国道206号の慢性的な交通渋滞の解消・各種開発プロジェクトの推進を図ることを目的としている。				
H2年度事業化	H1年度都市計画決定	H2年度用地着手		
全体事業費	710億円	事業進捗率		
計画交通量	40,400台/日	供用済延長		
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) : 1.84 B/C (残事業) : -	総費用 (残事業/事業全体) : - / 801.3億円 (事業費) : - / 800.1億円 (維持管理費) : - / 1.1億円	総便益 (残事業/事業全体) : - / 1472.4億円 (走行時間短縮便益) : - / 1,334.9億円 (走行費用減少便益) : - / 112.1億円 (交通事故減少便益) : - / 25.4億円	基準年 平成16年
感度分析の結果：残事業（事業全体）について感度分析を実施				
交通量変動：B/C = 1.91（交通量+10%） B/C = 1.76（交通量 -10%） 事業費変動：B/C = 1.70（事業費+10%） B/C = 2.00（事業費 -10%）				
事業の効果等 ・国道206号の混雑時旅行速度が20km/h未満であるため、旅行速度の改善が出来る。 ・関連する長崎駅周辺区画整理事業及び連続立体鉄道高架化事業並びに県庁舎移転事業などと連携を取り、良好な都市を形成出来る。				
関係する地方公共団体等の意見 各年度の長崎市の陳情に折り込まれるなど、自治体・市議会とも早期完成を望んでいる。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 長崎駅及び大波止ターミナル近辺に大型商業施設が進出したため、休日を中心に慢性的な交通渋滞はますます深刻化している。				
事業の進捗状況、残事業の内容等 一部において用地補償交渉が難航し、工事着手まで長期間を要したが、現在まで0.7kmを暫定2車線で部分供用している。残事業については、高架構造物、橋梁等が該当区間のメイン工事となる。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 雑居ビル1戸の移転交渉が難航している。今後、鋭意交渉を継続する。				
施設の構造や工法の変更等 交差点の立体交差について、周辺関連事業及び南北幹線北伸計画の進捗を勘案の上、暫定的な平面交差計画を検討する。				
対応方針	事業継続			
対応方針決定の理由	状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性・重要性は変わらないと考えられる。			
事業概要図				

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。